

**WEEKLY SIGNAL**

平成30年11月2日(金) 1448号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	11/5(月)	11/6(火)	11/7(水)	11/8(木)	11/9(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 3,500	+ 3,000	△ 4,000	△ 3,000	△ 4,000
資金需給	△ 2,500	+ 4,000	△ 3,000	△ 3,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)		10年物価連動国債 発行		
オペ期日	CP等買入 △ 100 共通担保(全) △ 1,500 国債補充 + 200				
オペスタート	国債買入 + 12,200 共通担保(全) + 1,800				
(日本)	日銀金融政策決定会合の議事録 (9月18、19日分) 黒田日銀総裁の記者会見	家計調査(9月)	布野日銀審議委員の講演 毎月勤労統計(9月) 景気動向指数(9月)	日銀金融政策決定会合における主な意見 (10月30、31日分) 機械受注(9月) 国際収支(9月) 対外・対内証券投資(10月28日-11月3日)	マネーストック(10月)
(海外)	米 ISM非製造業景況指数(10月)	米 中間選挙 米 求人件数(9月) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(10月、改定値) 欧 ユーロ圏総合PMI(10月、改定値) 欧 ユーロ圏PPI(9月)	米 FOMC(8日まで) 米 消費者信用残高(9月) 欧 ユーロ圏小売売上高(9月)	米 FOMC声明発表 米 新規失業保険申請件数 (11月3日終了週) 欧 欧州委員会経済見通し	米 クオールズFRB副議長の講演 米 シガン大学消費者マインド指数 (11月、速報値) 米 卸売在庫(9月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初396兆円台から始まり、31日には国債買入や短国買入などを主因に397兆円台まで増加した。その後は、財政等要因により減少し、週末となる2日には390兆8,100億円となった。  
無担保コールON物は、先週に引き続き軟調な地合いとなり、同加重平均金利は△0.072%~△0.068%のレンジで推移した。  
ターム物は1~2W物を中心に△0.045%~△0.03%の水準で出合がみられた。  
日銀は30・31日に行われた金融政策決定会合において、金融政策の現状維持を決めた。  
また、同31日に発表された展望レポートでは、18年度の物価見通しについて、前回7月の+1.1%から+0.9%に引き下げた。  
来週は国内では黒田日銀総裁の記者会見(5日)、布野日銀審議委員の講演(7日)、海外では米中間選挙(6日)、FOMC(7-8日)などが予定されている。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.380 ~ △0.280
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<C P>**

今週の入札発行総額は約1兆6,600億円で、週間償還額(約1兆4,500億円)から増加した。発行市場は、月末日発行(約9,300億円)は減少したものの、月初スタートやその他金融の大型発行等で活況となった。10月末の発行市場残高は18兆2,544億円となり、20カ月連続し前年同月比プラスを記録した。週末の発行市場残高は、大型発行案件等の影響で約18兆6,100億円と先週末比5,000億円強増加した(10/26残高:18兆967億円)。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジであった。  
来週の償還総額は約4,500億円で、ロール案件も少ないと思われ、落ち着いたマーケット展開を予想する。発行レートは、引き続きマイナス~0%近辺での出合が中心と思われる。6日に、CP等買入オペが2,000億円オフアーされる予定。

**<TDB>**

2日入札の3M793回債は最高落札レート△0.2836%(前回債△0.2958%)、平均落札レート△0.2980%(同△0.3211%)と前回から小幅利回りが上昇した。週末のセカンダリー市場は、3Mが△0.315%程度と入札水準の出合、6M・1Yは目立った出合は見られなかった。  
来週は11月8日に6M、9日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGC取引は週初△0.15%近辺から始まり、月末初の取引となる31日受渡しでは△0.18~△0.17%に低下した。1日受渡し以降は、前場△0.15~△0.14%近辺で取引され、後場△0.12%台までレートが上昇する展開が続いた。SC取引では5年136回債のbidが多く、国債買入れオペがオフアーされた30日受渡し、2日受渡しでは共に△0.40%台半ば~前半が出合の中心。10年352回債は、入札日前日まで△0.20%台半ば~△0.10%台後半の出合が続いた。  
その他2年390・391・392・393・394回債、5年134・135・137回債、10年337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20年164・165・166回債、30年58・59・60回債、40年10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。